

駒ヶ根市文化財

名称	木食仏
種別	美術工芸品(彫刻)
説明	木食戒(もくじきかい)を受け、五穀と火食を断って修業する僧を木食上人と呼んだ。市内には但唱(たんしょう)・山居(さんきょ)・白道(はくどう)など木食上人の彫刻した木像や石仏が何体か残っている。その他、木食を名のる修行僧の残した独特の書体、笹の葉書きの名号も市内には幾幅か見受ける。
名称	1)阿弥陀如来立像
所在地	赤穂小町屋
所有者	如来寺
説明	木食山居故信法阿(1655～1724)は松本市近在の生まれ、晩年は大町市弾誓(たんせい)寺(現在廃寺)6世住職となりそこで没している。山居は弾誓寺入山の前後に現駒ヶ根市に来ているといわれている。如来寺の阿弥陀如来立像は、像高 29.5cm、一木造で表側は金塗。剥落・損傷がなく、わずかに右足を新しく補修している。手法は仏像様式を忠実に写し、像容が整っている。裏側に「万体之内木食山居作」と墨書してあり、万体造仏を発願したその1体ではないだろうか。
名称	2)地蔵菩薩像
所在地	赤穂下平
所有	寿松院
説明	木食白道、寛延3年～文政8年(1750～1825)は山梨県(現、塩山市の小野家)に生まれた。後に師木食行道(五行(ごぎょう))に随行したこともあり、主には山梨県に多くの作品を残し、作風には行道の影響がうかがわれる。 寛政12年(1800)光前寺村の運八という孫作の二人が白道に「負箱」を贈った記録があることから、伊那谷にも足を踏み入れているものと推定される。 寿松院の立像は像高43cm、一木の荒彫り、無彩色で表面が黒く煤(すす)けている。稚拙さとともに柔和な微笑みを表情にたたえ、見る人に親しみを抱かせるそんな彫像である。



如来寺 阿弥陀如来立像



寿松院 地蔵菩薩像